

総合的な対策・取組

～体制整備、合意形成、ICT の活用について～

兵庫県立大学
/兵庫県森林動物研究センター

山端 直人

0

自己紹介

農林水産省⇒三重県庁⇒現職

山端 直人 兵庫県大
／兵庫県森林動物研究センター

専門:「農村計画」「アクションリサーチ」
「野生動物の被害管理」

～社会調査、集落づくり、被害防除、
捕獲、政策提案まで～

アクションリサーチ 長期に「共同で」「改善」していく「実践」



集落や地域で獣害の改善方法を「提案」し「課題解決」を図る「実践」
～年間で20集落、累計約300の集落で実践～



研究・教育と、被害現場や行政機関との「実践」が自身の強み

集落の合意形成理論(ご要望あれば要請ください)

先ずお伝えしたいこと



柵からは(シカは)は入れない。効果はある。

正しい対策(政策です)で、必ず成果は出る
→住民等の評価も得られる

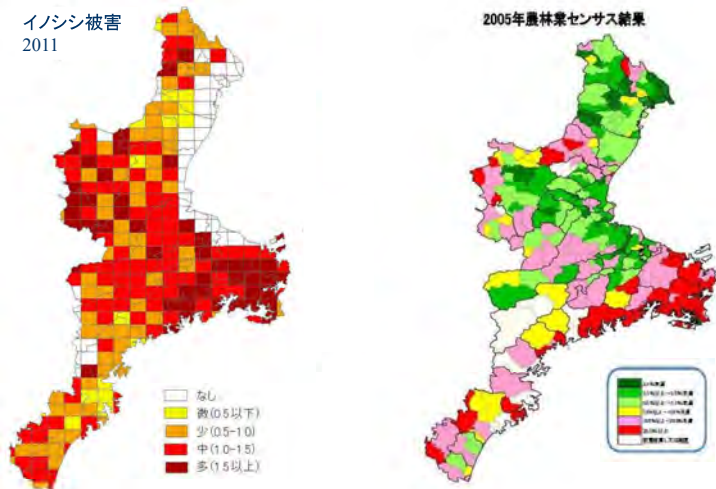
農業を辞めたい理由

(2011山端)



イノシシ被害
2011

2005年農林業センサス結果

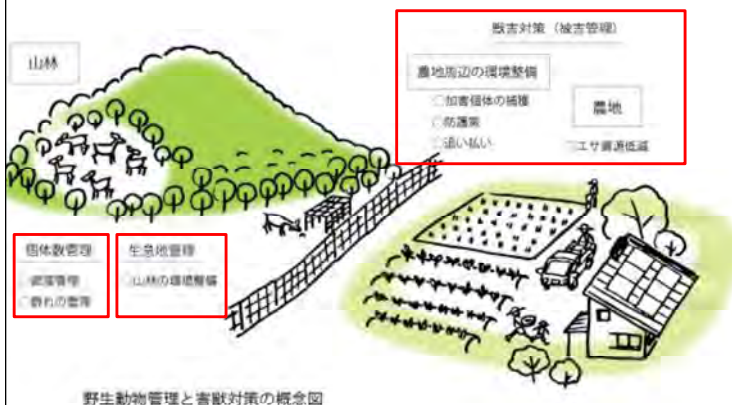


耕作放棄地の増加程度

獣害の改善は農業問題の根幹につながる

野生動物に関する業務の全体像 (ランドデザイン)

野生動物管理(ワイルドライフマネジメント)の概念図



野生動物管理と害獣対策の概念図

まずはこっち側の話題が中心



野生動物管理と害獣対策の概念図

地域でみられる「獣害」の5つの原因

① 人が被害と思わない「エサ」がある



② 「正しく」囲えていない



③ 隠れ場がある



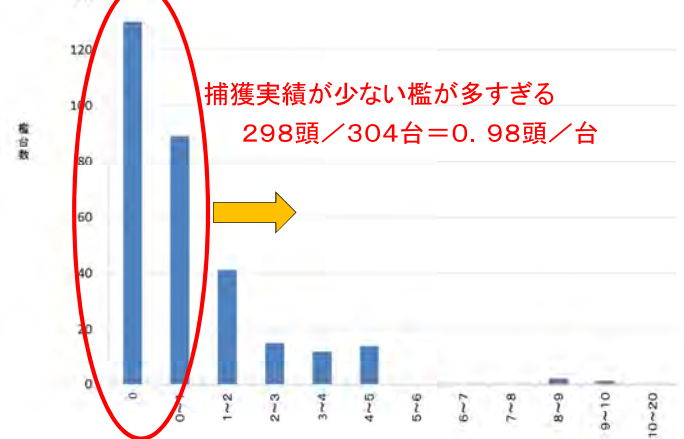
④ 正しく追い払えていない（サル） （効果が少ない追い払い）



⑤ 適切に捕獲できてない



集落設置の柵での捕獲実績(H23調査・イノシシ)



H23年度農業被害状況調査(三重県農業研究所)より

集落間でこんなに捕獲数(有害)が違う！

有害捕獲数

- 0.0 - 0.0
- 0.0 - 20.0
- 20.0 - 60.0
- 60.0 - 100.0
- 100.0 -

⑤生息数も多すぎる(シカ)

シカ
目撃効率
[狩猟(銃猟)]
令和元年度
(2019)

目撃効率
(例/人百)

- 0
- 1未満
- 2未満
- 3未満
- 4未満
- 4以上
- データなし

防護柵の補修が追いつかない地域も



シカ(イノシシ)対策の5箇条

- 1 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- 2 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- 3 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う



集落のエサ場価値を下げる

- 4 加害している個体を適切に捕獲する
- 5 適正な密度管理を進める

サル対策の5箇条

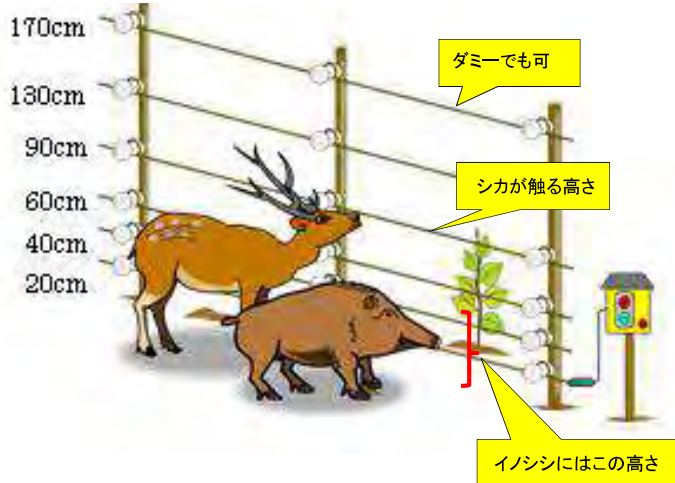
- 1 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- 2 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- 3 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う
- 4 人里は怖いと覚えさせるため、獣を見たら必ず追い払う

↓

集落のエサ場価値を下げる

- 5 群れ単位に頭数をコントロールする

③電気柵で囲う（シカ＋イノシシ）



探査させることで感電させる

兵庫県森林動物研究センター研修資料より

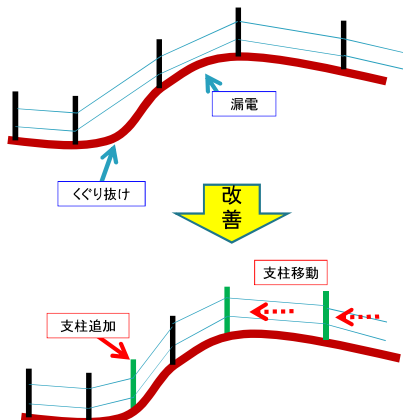


だから、こういう簡易な
チェック棒などを使うと
ミスが少なくなります

こういう電気柵がいっぱいあるはず！



凸凹な地面では支柱配置に注意



管理の基本は電圧チェック 5000V以上

電気柵の草刈と、電圧チェックは
セットの仕事とすること。



電圧の通知機能を有する電気柵システム



R3 上郡町赤松(集落営農を中心とした集落)



R4 上郡町赤松(集落営農を中心とした集落)



202

地域主体の防御と捕獲で
シカ、イノシシの被害解消

兵庫県相生市小河集落

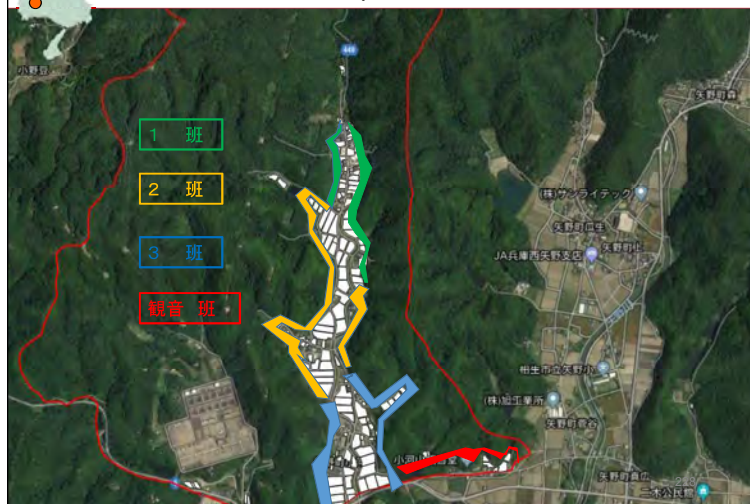
相生市小河



地域施WM柵(鉄柵)を設置

227

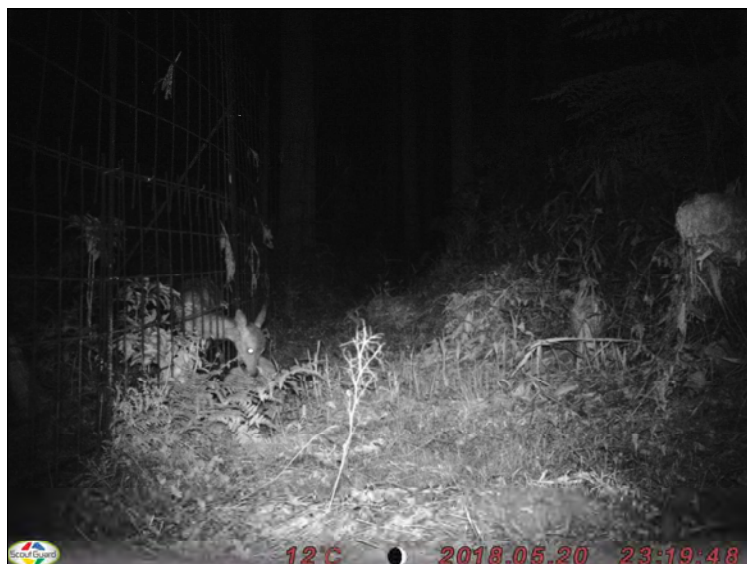
相生市小河 4班で2回/月の柵点検



設置したWM柵は地域で点検

229

しかし、進入する
加害個体も増加



地域主体で
捕獲も開始



地域で箱罠を設置して捕獲